

2 年 団

学年主任： 藤井 勝幸

(1) 今年度の目標

- ① **2年生としての自覚を持ち、規律ある高校生活を送る。**
 - ・自主的、自律的生活を心がけ、自分の言動には責任を持つ。
- ② **具体的な進路目標を持ち、主体的な学習をする。**
 - ・目標実現に向けた効果的な学習の実践を目指す。
- ③ **特別活動に意欲的に取り組み、充実感と達成感を得る。**
 - ・部活動や修学旅行・斯文祭などの学校行事に積極的に参加する。

(2) 主な取り組みの計画

- ① **授業態度、服装、言動など基本的な生活習慣やマナーについて学年全体で取り組む。**
 - ・基本的な生活習慣が確立していることが最重要であること自覚させる。
(服装検査・遅刻指導などの生活態度は、教員が共通意識を持ち、粘り強く指導する。)
 - ・試験前の学習計画表や生活時間調査、夏休みの生活時間調査等を有効に活用させ、計画性を身につけさせる。
 - ・面接指導を効果的に実施し、つまずきの発見や悩み等を早期に発見する。
(聞き取りを通じて生徒の内面に寄り添う指導をし、人間的に成長させる。)
 - ・ホームルーム活動を充実させ、級友の様々な考えを知り、自分を顧みる機会を与える。
- ② **学力の2極化が進む中、面接等を最重視し、個に応じた指導をする。**
 - ・一日平均4時間の学習時間が取れるよう計画を立て実践させる。(学年+2時間)
 - ・受験情報雑誌を適宜紹介したり、進路の手引きを活用させ、自分に必要な情報を探す力をつけさせる。(オープンキャンパスに積極的に参加させ、進路意識を高めさせる)
 - ・進路だよりや学年便りを効果的に発行し、どの時期に何をすべきかのヒント、アドバイスを与える工夫をする。
- ③ **学年・クラスの和を大切にし、学校行事に積極的に参加させることによって人間的な成長を促す。**
 - ・部活動の中核となって活動させる。(先輩や後輩との人間関係)
 - ・学校行事(運動会、斯文祭、津島杯、特に修学旅行、など)に積極的に参加させる。
 - ・その他の企画(高大連携事業や国際交流会、講演会)などに積極的に参加させる。

(3) 成果

- ・進路からの生活時間調査だけでなく、定期考査前や長期の休み前に計画表を立てさせたことは、学習に対する意識づけのためにも良かった。
- ・参加者が減少したのは残念であるが、難関大学合同合宿やキャンパスツアーは、参加した生徒の反応などを見ると、良い刺激を受け当初の予想よりはるかに効果があった。
- ・決められた面接週間だけでなく、気になる生徒について適宜面談することによって、学習面では試験前だけでなく、苦手教科に取り組む生徒が増加している。
- ・1月「3年0学期」宣言により、それぞれ自分の進路に対する意識が高まり、クラスの雰囲気に変化がみられた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ・服装指導は、学校全体で取り組んでいるため改善されてきているが、教室に戻れば元に戻っている生徒もいる。遅刻指導と同じだが、規範意識をしっかりと持たせる指導が必要である。数名の生徒の遅刻指導が十分ではなかった。家庭との連携が大切である。
- ・成績面では、最上位層を増やすまでには至らなかった。これからの時期の適切な面接が重要だと思う。また、下位層の意識を十分に高めることはできなかった。担任だけでなく、学年主任や教科担当者、部活動顧問など多くの先生方の指導が必要である。
- ・「3年0学期」宣言で、少しクラスの雰囲気に変化がみられる。是非、継続してほしい。4月までの時期が大切だということを根気強く訴えていくことが必要である。